

2016年11月25日

四国電力株式会社  
社長 佐伯隼人様

未来を考える脱原発四電株主会  
共同代表 本田耕一 佐藤公彦 丸井美恵子 内田知子

## 伊方原発3号機の再稼働についての公開質問状（4）

8月12日、当社は、私たちや多くの人びとの危惧や不安、願いの声に耳を傾けることなく、伊方原発3号機の再起動を強行し、9月7日には営業運転を開始しました。関西電力高浜3、4号機が司法判断で運転差し止め中のため、プルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料によるプルサーマル発電は現在、国内でこの伊方3号機だけです。プルサーマルはより危険性が高く、使用済み燃料の処分方法もまったく目途が立っていません。暴挙というほかありません。

稼働前の4月14日から頻発する熊本・大分を中心とした一連の大地震、さらに稼働後の10月18日以降の鳥取中部を震源地とする大地震と相次ぐ広域連鎖的な地殻変動が起きています。11月22日の福島県沖の地震では最大1.4メートルの津波も発生しました。当社は、何事もなかったかのごとく粛々と3号機を稼働させているように見えますが、千葉昭会長、佐伯隼人社長、それに原子力本部長の玉川宏一副社長、伊方3号機をこのまま稼働させていて本当に大丈夫なのでしょうか。「もしも？万一？」というご心配はされていないのでしょうか。さて、質問です。

【1、心配されていないのならその理由を、伊方原発のすぐ近くには中央構造線が走り、かつ南海トラフ巨大地震の震源域にもあることを踏まえて、具体的にお答え下さい。心配されているのなら、それでも伊方3号機を稼働させている合理的理由を具体的にお答え下さい。】

上記と関連しますが、朝日新聞（2016年2月28日付）は、「MOX燃料は通常のウラン燃料より数倍高価なことが財務省の貿易統計などから分かった」と報じています。同記事によれば、2009年5月の伊方原発のMOX燃料は1本8億8747万円、21本総額で186億3689万円になっています。さて、質問です。

【2、今回、再起動させた3号機のMOX燃料価格をご教示下さい。同時に、なぜ、ウラン用の原子炉で高価で危険性が高く、処分方法も不明なMOX燃料をわざわざ使用するのか、お答え下さい。】

『よんでんグループ CSR レポート2012』によれば、「地震の揺れに備えての対策」として「免震事務所の建設」を挙げています。ところが、原子力規制委員会の審査で耐震が不十分とされ急遽、緊急時対策所を設置しました。福島第一原発の事故時、免震重要棟がなければ東日本壊滅という破局は免れなかったと言われていました。さて、質問です。

【3、当社の緊急時対策所は、重大事故時、東京電力の免震重要棟と同程度もしくはそれ以上の機能を発揮できるのでしょうか。千葉昭会長(当時社長)は、「こうした基準(新規制基準)に適合することは、原子力発電所を稼働させるうえで必要ではありますが、国が定めた基準を充足するだけで十分であるとは考えていません」(『よんでんグループアニュアルレポート2014』)と言われていました。千葉会長(当時社長)の言葉を踏まえて、緊急時対策所の設置場所、規模、収容人員等、東電の免震重要棟との比較で具体的な数字を提示してお答え下さい。同じく、耐震不十分とされた免震事務所は今後どのようにされるのでしょうか。合わせてお答え下さい。】

毎年報告される財務諸表を見ると、損益計算書の「電気事業営業費用」に「他社購入電力料」という項目があります。この数年、毎年上昇していますが、昨年(2015年)度は1502億7800万円になっています。同じく「地帯間購入電力料」は、4億5800万円です。一方「電気事業営業収益」の「他社販売電力料」は89億円。「地帯間販売電力料」は77億3800万円です。さて、質問です。

【4、福島第一原発の事故以降、ほぼ原発が停止し、政府も電力各社も電力不足を叫ぶなかで、どの会社がこのように多くの電力を販売してくれるのでしょうか。当社の最近10年間の電力購入先と購入電力量、購入単価をお答え下さい。】

伊方原発敷地内の「ろ過水タンク A」の後方山側にダンプ2台が通れるほどの本格的なトンネルが掘られています。ユンボや作業員の姿も見え、現在もまだ工事中のようですが、このトンネル工事は何のためになされているのでしょうか。もう一つ、3号機の近くにも小さなトンネルが見えます。さて、質問です。

【5、この2つのトンネル工事には巨額の費用が掛かると思うのですが、この工事の目的、工期、総工費をお答え下さい。】

以上5問について、12月24日(土)までに文書にて本会事務局にご回答下さい。

771-0117 徳島市川内町鶴島120-1  
事務局代表 本田耕一

